

平成28年度 地域ケアプラザ事業実績評価（鶴見区）

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
潮田地域 ケアプラザ	(福) 横浜市 社会福祉協議会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配食事業利用者の実態把握を行うため、地域交流部門だけでなく、包括、生活支援の職員も含めて全体で家庭訪問を行った。適切に介護保険の申請につなげることができているうえ、所内全体でアセスメントを行い、共有が進んでいた。 <p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域からの要望で職員が研修で資格を取り、よこはまシニアボランティアポイント登録研修会をケアプラザで実施し21名の参加があり、その後、配食活動にもつなげることができた。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が多く通院している診療所や、病院の相談室と随時連絡を取るなど、連携ができている。認知症初期集中支援チームでは積極的に関係医療機関等と連絡を取り支援を行った。 元気づくりステーションは、東部地区内4か所の公園について自主化に向け支援したが、保健活動推進員の人数にばらつきがあることなどからスタートには至らなかった。次年度は一斉に自主化がスタートできるよう引き続き支援を求めたい。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> より小さなエリア単位で地域の現状を把握するため、住民支え合いマップを作成し、継続して行っている。
矢向地域 ケアプラザ	(福) 横浜市 福祉サービス協会	A	<p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキングポイント事業について、健康福祉局と連携して広報紙に掲載し、ケアプラザの新規の来館につなげるツールとして活用ができていた。 「大歌声喫茶ふるさと」の開催支援では、ボランティアグループの活動が活発な地域状況に応じた支援に取り組み、地域のつながりの強化につなげることができている。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃の地域活動から見てきた「情報が少なく介入しにくい大型マンションの独居高齢者の支援」という課題を地域ケア会議のテーマに取り上げたことにより、地域住民とともに課題の整理や情報の共有ができた。 基本チェックリストを試行実施する地域包括支援センターとして、2名の事業対象者について介護予防ケアマネジメントを実施した。また、介護予防ケアマネジメント研修に企画の段階から携わり、ケアマネジャーのスキルアップに貢献した。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブの活動を活発化するための取組が行われている。また、担い手の不足や高齢化など、課題について把握されている。

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
寺尾地域 ケアプラザ	(福) 横浜市 社会福祉協議会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターの活動の場づくりや小学生向け認知症サポーター養成講座をともに連携して取り組み、サポーターの育成だけでなく、活躍できる場を提供することができている。 ・特別避難場所開設訓練を今年度初めて実施した。職員からの提案で今回の訓練に参加し、職員全体への防災の意識づけができている。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の理解を深めるためにケアマネジャーに説明を行い、同行訪問を実施した。エンディングノートの講座依頼が増えたため4回開催し、多くの参加があった。また、地域の要望に応じていく姿勢が見られる。 ・地域ケア会議に民間スーパーの店長の参加があり、地域リハビリテーション活動支援事業の活用も行った。テーマに買い物支援について取り上げて話し合いが持たれ、課題解決に結びついている。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物を考える会では、買い物に困っているという地域課題を基に今後アンケート調査を実施するなど具体的な取組事項の設定をしている。
東寺尾地域 ケアプラザ	(福) 若竹大寿会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象としたサロンづくりは所内での連携を図り、地域ニーズをしっかりと把握し、交流を深めながら、岸谷第二地区の立ち上げの支援を行った。 <p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブログやツイッターによりイベントやコラム等の情報提供をこまめに行う等、地域やケアプラザの情報発信を積極的にすることができている（ブログの更新月4回以上、事業報告は実施2日以内に更新）。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防の教室を各所で開催し、小学生や大学生対象の認知症サポーター養成講座も開催した。また、キャラバンメイトの活動も広がりを見せ、連絡会の開催もできており、地域に溶け込んだ認知症予防の活動ができている。 ・認知症をテーマに地域ケア会議を開催した。ケアマネジャーや居宅介護サービス事業者、医療機関等が54名参加し、支えあいネットワークの強化につながった。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの立ち上げについて、5職種が連携して進められている。また、区や区社協の補助金を活用するなどの取り組みが見られた。

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
駒岡地域 ケアプラザ	(福) 横浜鶴声会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上末吉5丁目町会長から地域のつながりの醸成促進に対する希望が伝えられ、生活支援体制整備の協議体を作り、見守りネットワークに民生委員や町会役員と協働で取り組むことにつながった。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオン従業員向けに開催した認知症サポーター養成講座から店内ブース出展(ロコモチェック)につながった。地域ケア会議に薬局・コンビニが参加する等、地域の企業との関係構築が着実に進んでいる。 ・虐待に関する相談件数が多いが、訪問に積極的に出ている。また、虐待に付随する問題が多く発生している家庭もあるが、関係機関と協力しながら対応に努めている。なお、介護をしている人へのアプローチが今後の課題になっている。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での見守り活動について話し合う場を活用し、現状把握のためのアンケート調査を実施している。
鶴見市場地域 ケアプラザ	(福) 大樹	A	<p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型マンションで行われている育児教室に参加した際に保護者から保育園・幼稚園の見学のニーズがあることをキャッチして、見学会を2回実施するなどして情報提供に努めた。 ・「生活困窮家庭の中学生学習支援」をコミュニティハウスや主任児童委員等と連携し、新たな担い手を発掘し、中学校と協力関係を築きながら開催ができています。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談ケースの追調査では、地域包括支援センター内で情報を共有し、支援の必要性について検討している。集中的な追跡調査により新たな相談や支援につながる対象者がおり、追調査の効果が見られている。 ・緊急ケースの対応や病院からの同行依頼等ケアマネージャーの力量に差があり、特に1人ケアマネージャーの事業所からは相談が多く上がる状況の中で、個別支援や研修を通して丁寧にサポートできた。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ内に、地域ぐるみの展開を視野に体操サークルの立ち上げが行われた。

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
鶴見中央地域 ケアプラザ	(福) 横浜 YMCA福祉会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者作業所と町内会との間のパイプ役として、作業所の利用者を地域の防災訓練への参加につなげ、地域の中でのつながりを広げることができた。 <p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校、保育園、保育室を訪問し、情報交換を行っている。小中学校の福祉体験の受入等を積極的に行い、また幼児の慰問の受入を行い、福祉情報を提供している。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス支援等が必要と思われる対象者が具体的な支援につながっていない場合には、定期的に電話連絡や訪問を行ない、情報把握に努めることができた。 ・オレオレ詐欺の電話がエリア内で多く発生していることを把握し、周知等に力を入れている。また、鶴見警察署と協力した消費者被害啓発講座や、司法書士と連携したエンディングノート講座など、権利擁護に関する講座を積極的に開催した。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会町内会別のアセスメントシートの作成に職員全体が関わり、ニーズ・資源の把握に努めている。
生麦地域 ケアプラザ	(福) 横浜 YMCA福祉会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブに出向き、希望の講座のアンケートを実施するなどして的確に地域のニーズを把握し、それに応じた出張講座（体操等）を柔軟に実施している。 <p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動希望者の特技が活かせるよう、ヒアリングを行ったうえで事前のオリエンテーションや関係者との顔つなぎを行い、継続的に活動できるように丁寧に支援している。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の被害防止に向けて行っている啓発が地域に広がっている等、権利擁護の普及啓発によく取り組んでいる。 ・エリア内のケアマネジャーの活動情報をよく把握している。状況に応じた個別対応等の支援も適切にできている。また、他の地域包括支援センターと協働で開催する研修会や連絡会の中心となって動いている。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と老人クラブの交流を図り、見守りという分野で情報を共有し、活動の広がりを推進している。

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
馬場地域 ケアプラザ	(福) 秀峰会	A	<p>(地域ケアプラザ部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の公平中立性の確保については、サービス利用状況の傾向分析や利用者への事業者リストの提示等、丁寧な対応ができています。 <p>(地域活動・交流部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査から「ミドルエイジヨガ」の自主企画事業を立ち上げて、現在は自主化することができた。地域のニーズに応じた、具体的事業の実施へと展開することができていた。 <p>(地域包括支援センター部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブでの説明や町内会向けの啓発など、積極的な普及啓発に取り組んでおり、地域からの相談が入りやすい関係づくりができています。また、その結果が早期の個別支援にもつながり、効果が上がってきています。 ・元気づくりステーションの自主化が順調に進んでおり、評判を聞いた地域の人たちの口コミで参加人数が着実に増えている。また、多様な講座を開催することで、参加者の興味がつきないような工夫が見られる。 <p>(生活支援体制整備事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会別マップの作成や、地域への困りごとのヒアリング、大規模アンケートの実施など、ニーズ・資源の把握に努めている。